

組織学実習

科目責任者 上 田 秀 一
学年・学期 2 学年・1 学期

I. 前 文

組織学・解剖学・発生学において学んだ知識を本実習において確認していく。実習では顕微鏡を用いて、染色された標本を観察し、スケッチしていくが、その臓器・組織・細胞をマクロからミクロまで連続して理解することが大切である。

II. 担当教員

教 授	上 田 秀 一	解剖学 (組織)
学内准教授	江 原 鮎 香	解剖学 (組織)
講 師	山 口 剛	解剖学 (組織)
助 教	甲 斐 信 行	解剖学 (組織)
助 教	橘 篤 導	解剖学 (組織)
非常勤講師	屋 代 隆	帝京平成大学 健康メディカル学部 健康栄養学科

III. 一般学習目標

完成したヒトの正常構造が、細胞およびその有機集合体である組織により、いかに構成されているかを実習によって確認する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 細胞の基本的構造について観察し、理解する。
- 2) 組織の概念を理解し、構造を観察する。
- 3) 器官 (臓器) を構成する組織・細胞を観察し、理解する。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	30	木	4	呼吸器①	解剖学 (組織) 全 教 員
2		30	木	5	呼吸器②	解剖学 (組織) 全 教 員
3		30	木	6	呼吸器③	解剖学 (組織) 全 教 員
4		30	木	7	呼吸器④	解剖学 (組織) 全 教 員
5	5	12	火	4	循環器①	解剖学 (組織) 全 教 員
6		12	火	5	循環器②	解剖学 (組織) 全 教 員
7		12	火	6	循環器③	解剖学 (組織) 全 教 員
8		12	火	7	循環器④	解剖学 (組織) 全 教 員
9		14	木	4	消化器① (口腔～食道・唾液腺)	解剖学 (組織) 全 教 員

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
10	5	14	木	5	消化器②（口腔～食道・唾液腺）	解剖学（組織） 全 教 員
11		14	木	6	消化器③（口腔～食道・唾液腺）	解剖学（組織） 全 教 員
12		14	木	7	消化器④（口腔～食道・唾液腺）	解剖学（組織） 全 教 員
13		19	火	4	消化器⑤（胃～肛門）	解剖学（組織） 全 教 員
14		19	火	5	消化器⑥（胃～肛門）	解剖学（組織） 全 教 員
15		19	火	6	消化器⑦（胃～肛門）	解剖学（組織） 全 教 員
16		19	火	7	消化器⑦（胃～肛門）	解剖学（組織） 全 教 員
17		21	木	4	消化器⑨（肝臓・膵臓）	解剖学（組織） 全 教 員
18		21	木	5	消化器⑩（肝臓・膵臓）	解剖学（組織） 全 教 員
19		21	木	6	消化器⑪（肝臓・膵臓）	解剖学（組織） 全 教 員
20		21	木	7	消化器⑫（肝臓・膵臓）	解剖学（組織） 全 教 員
		23	土		中間試験	解剖学（組織） 全 教 員
21		26	火	4	内分泌器①	解剖学（組織） 全 教 員
22		26	火	5	内分泌器②	解剖学（組織） 全 教 員
23		26	火	6	内分泌器③	解剖学（組織） 全 教 員
24		26	火	7	内分泌器④	解剖学（組織） 全 教 員
25		28	木	4	泌尿器①	解剖学（組織） 全 教 員
26		28	木	5	泌尿器②	解剖学（組織） 全 教 員
27		28	木	6	泌尿器③	解剖学（組織） 全 教 員
28		28	木	7	泌尿器④	解剖学（組織） 全 教 員
29	6	2	火	4	男性生殖器①	解剖学（組織） 全 教 員
30		2	火	5	男性生殖器②	解剖学（組織） 全 教 員
31		2	火	6	男性生殖器③	解剖学（組織） 全 教 員
32		2	火	7	男性生殖器④	解剖学（組織） 全 教 員
33		4	木	4	女性生殖器①	解剖学（組織） 全 教 員
34		4	木	5	女性生殖器②	解剖学（組織） 全 教 員
35		4	木	6	女性生殖器③	解剖学（組織） 全 教 員

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
36	6	4	木	7	女性生殖器④	解剖学(組織) 全 教 員
37		9	火	4	視覚器①	解剖学(組織) 全 教 員
38		9	火	5	視覚器②	解剖学(組織) 全 教 員
39		9	火	6	視覚器③	解剖学(組織) 全 教 員
40		9	火	7	視覚器④	解剖学(組織) 全 教 員
41		11	木	6	特別講義	屋 代 隆
42		11	木	7	特別講義	屋 代 隆
43		15	月	1	血液①	解剖学(組織) 全 教 員
44		15	月	2	血液②	解剖学(組織) 全 教 員
45		15	月	3	血液③	解剖学(組織) 全 教 員
46		16	火	3	聴・平衡覚器①	解剖学(組織) 全 教 員
47		16	火	4	聴・平衡覚器②	解剖学(組織) 全 教 員
48		16	火	5	聴・平衡覚器③	解剖学(組織) 全 教 員
49		16	火	6	聴・平衡覚器④	解剖学(組織) 全 教 員

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

中間試験，定期試験，口答試問・スケッチ・レポートおよび出席状況によって総合的に評価する。

VII. 参考図書

参考書：カラーアトラス 機能組織学 カー著 河田・小路（監訳） 医歯薬出版
 Ross 組織学 内山（監訳） 南江堂
 人体の正常構造と機能 坂井・河原（編集） 日本医事新報社
 標準組織学（組織学総論の教科書） 医学書院

VIII. 質問への対応方法

申し出により，放課後・土曜日に実習室を開放することがある。

放課後，教室にて随時受け付ける。

まとまった質問やグループでの質問については，毎週土曜日の午前（9時～12時）をオフィスアワーとし，担当教員が対応する。（ただし第3土曜および休日を除く）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出されたスケッチを添削のうえ，返却します。

XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載済み。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載済み。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）